









# 標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第2学年

第1・2学年㊦

◎めあて

-  心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ
-  試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する
-  形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う



学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点 	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・24時間	2～4時間 教科書8・9ページ	表現(2) 	 したことや見たことから好きなことを見つけて、くふうしてかく	すきなことなめに	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、日常生活でしたことや見たことの喜びや驚きを素直にのびのびと絵にかくたのしさを味わう内容である。 学校や家で、友達や家族と遊んだこと、たのしいことやおもしろいと感じたことなどから好きなことを見つける。 表したい場面を思い浮かべながら、クレヨンやカラーペンなどを用いて、表し方を考えて表す。	関：したことや見たことからかきたいことを見つけて絵に表すことをたのしむ。 発：したことや見たことから心に残ったことを思い浮かべ、表したい場面を考える。 創：好きな色を選んだり、気に入った色になるように表し方を考えたりしながら自分の表し方にかく。 鑑：作品を見て感じたことを話したり、友達の話を聞いたりするなどして、よさや工夫を見つけてながらたのしく見る。 【共】 したことや見たことからおもしろいと感じたことなどを見つけ、好きな色を選ぶなどしながら形や色をとらえ、これをもとにたのしさなどの表したいことについてのイメージをもつ。	教師：画用紙、色画用紙（八つ切り） 児童：クレヨン、パス、カラーペン	1・2上での経験を生かしながら、自分の好きなことを見つけてかく題材である。クレヨン、パスに加えてカラーペンや、一部に絵の具を使うなど、自分でかきたいと思う描画材を選ぶことができるようにしたい。 また、画用紙は、1・2上「すきなものなめに」よりも少し大きめのものにして、場合によっては2枚つなげるなどの工夫をして、かきたい気持ちを大切にしたい。1枚の枠中で収めなくともよいことを理解することで、今後の発想を広げることができる。
	2～4時間 教科書10ページ	表現(2) 	 じしゃくのついたかざりをつくる	マグネット・マスネット	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、紙粘土や色紙で好きな形をつくり、裏に磁石をつけて飾りをつくる内容である。 使いたい場所に合う飾りを考えてもよいし、好きな形をつくってから、使う場所を考えてもよい。	関：磁石でつく飾りをつくることに興味や関心をもつ。 発：つける場所に合う飾りを考えたり、使い方を考えたりする。 創：磁石の強さに合う重さや丈夫さを工夫し、実際に使用できるようにする。 鑑：壁や黒板、つけたい場所に貼りつけたり、実際に使ったりして、互いの作品のよさに気づく。 【共】 マグネットをつけてつくる飾りの形や色を考え、これをもとにつくりたい自分のマスネットのイメージをもつ。	教師：軽量紙粘土、色画用紙、共同絵の具、マグネットシート、（水性ニス） 児童：磁石、カラーペン、接着剤、はさみ	工作としては、1・2上の「うきうきボックス」から続く活動である。日常で使えるものをつくることを通して、それを使う喜びを味わい、あるいは家族にも喜んでもらうことで、生活をたのしくする作品づくりへの意欲を大いにもたせていきたい。

1学期・24時間	2時間 教科書11ページ	表現(2) 絵	 えのぐをぬることをたのしむ	えのぐじま	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、自分の感覚を絵の具の形や色にたとえ、絵の具をぬる快さを味わいながら、心を開いて思いのままに表すことをたのしむ内容である。</p> <p>「あるところに、絵の具島がありました。島のあちこちから絵の具が噴き出て、まるで虹のふるさとのようです。」というような短いお話から自分なりに想像を広げて絵にかく。</p> <p>絵の具の塗り心地をたのしみながら、色や形、筆の使い方など、水彩絵の具で直接に表していく。</p>	<p>関：自分の感覚を大切に、心を開いて形や色、ものの感じを水彩絵の具でかく快さやたのしさを味わう。</p> <p>発：「絵の具島」を側面から見たり、上空から見たり、島に上陸して見たりしている気持ちで場面を想像する。</p> <p>創：形や色、筆触の違いを生かし、「絵の具島」のかき方を工夫する。</p> <p>鑑：気持ちを絵の具の形や色にたとえた表現がそれぞれ違うことに気づく。</p> <p>【共】「えのぐじま」という言葉から思い浮かぶ形や色をとらえ、それをもとに自分の「えのぐじま」のイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙、共同絵の具、太筆や刷毛、画板</p> <p>児童：タオル</p>	<p>1・2上での絵の具の具の体験を基礎としているが、1・2下では、筆の動き、筆先の工夫が表現の基礎となっている。</p> <p>絵筆をダイナミックに動かしながら、自分の表したいことを線描と面描を使って表現していくことで、自分のイメージを実現させていくことができる。</p> <p>この題材では、最初から何かを表そうと段階的に表現していくよりも、筆の思わぬ動き、色の意外な組み合わせでイメージを広げながら、筆の動きをたのしむことで、自由に筆を扱う基礎となる。</p>
	2時間 教科書12ページ	表現(1) 遊	 土やすなど、土からだせんたいをつかっただのしくかつどうする	※「土」ついてもちがいい	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、土を使って、山にしたり、トンネルを掘ったり、また、水を加えて泥にしたりして、土の触り心地を、体全体を使ってたのしむ造形遊びの活動である。</p> <p>学校の状況によっては、砂を使ったり、粘土を使ったりして活動するのもよい。</p>	<p>関：土や泥の触った感じを味わいながら思いついたことを、全身を使って行う。</p> <p>発：体全体で土とかかわり、その触感や形などの変化に気づき、やりたいことを思いつく。</p> <p>創：土とかかわりながら、丸める、掘る、積むなどの工夫をする。</p> <p>鑑：自分や友達の表現のよさに気づき、認め合う。</p> <p>【共】土の感触や形や色を味わってとらえ、それをもとに、してみたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：土（砂や粘土でもよい）</p> <p>児童：タオル</p>	<p>土や砂、粘土などは、幼児期や1・2上で体験してきた材料だが、手で触った冷たい感じや手にくっつく感じなどを十分に味わい、全身で活動することで、材料の特徴や、形のつくり方などを体験する。</p> <p>この体験がもとになり、次学年以降の粘土による立体制作の素地となっていく。</p>
	2時間 教科書13ページ	表現(1) 遊	 ぬのやわらかさを生かしてたのしくかつどうする	※ほわほわむくむく	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、身近にある布の肌触りの心地よさを感じながら、形をつくり出すことのたのしさを味わう内容である。</p> <p>布は巻いたり、ねじったりして輪ゴムやひもでとめるといろいろな形になり、容易に元に戻すことができることから、考えを確かめながらつくるのに適している。</p> <p>タオルや衣類、シーツやなど、柔らかな肌触りの身近にある布に触った感じを生かしながら、布の広がりや可塑性を確かめながら、友達とたのしくつくる。</p>	<p>関：布の肌触りの心地よさを感じながら、布で形をつくることのたのしさを味わう。</p> <p>発：巻いたり、ねじったり、包んだり、布の広がりや可塑性を確かめたりしながら、イメージをふくらませてつくる。</p> <p>創：巻いたり、ねじったり、包んだりなどを試しながら、思いついたことに合わせて、つくり方や組み合わせ方などの工夫をたのしむ。</p> <p>鑑：友達と一緒に布でつくって遊ぶことのたのしさを互いに感じ取る。</p> <p>【共】布を触った感じや、巻いたりねじったりする行為を通して、形や色の組み合わせや自分でしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：輪ゴム、ひも類、モール</p> <p>児童：タオル（大小各種）、ハンカチや風呂敷、シーツ類、手袋や靴下など、ゴムひも、毛糸やリボンなど、洗濯ばさみ、はさみ</p>	<p>1・2上で経験した大きな紙とはまた異なる大きな布の柔らかさを、身体を使って十分に味わう活動である。</p> <p>大きな布の様々な操作性を体感しながら、柔らかい布の性質やその質感などを知る体験をする。</p> <p>低学年で心を開放して、全身でかわるこうした経験をしていくことが、中学年以降、造形活動に能動的、積極的にかわっていくことができる態度の育成につながっていく。</p>

学期	時間	指導 要領	めあて と重点 活動	題材 名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・24時間	4時間 教科書14ページ	表現 (2) 	 しゅ人ニアがうごくしくみから そうぞうしたことをかいてたのしむ	ゆめのぼうけんものがたり	☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、自分の考えた主人公を紙粘土や紙でつくり、竹ぐしに直接つけて切り込みを入れた画用紙に通したり、割りばしにマグネットをつけて置いたりして、主人公が冒険する世界を絵に表す。 動くものの表し方(立体、半立体、平面など)や動く仕組み(竹ぐし、マグネット、割りばし)は子どもに委ねたい。	関:主人公が動くしくみに興味をもち、冒険物語づくりをたのしむ。 発:つくった主人公のマスコットに合わせて冒険したい夢の世界を想像する。 創:自分のイメージに合わせて形や色を工夫し、主人公や冒険の世界を表す。 鑑:友達と互いに動かして見せ合い、よさやおもしろさに気づき、伝え合う。 【共】自分の考えた主人公を動かして冒険したい世界をイメージし、主人公と絵が一体化するようにかいたりつくったりする。	教師:画用紙、色画用紙、共同絵の具、軽量紙粘土、竹ぐし、割りばし、マグネットなど 児童:カラーペン、のり、セロハンテープ、はさみ	描画と工作的な活動の組み合わせである。自分がつくった主人公が活躍するお話を創造し、主人公が活躍する場面をかくという、創造性や工夫が生きる題材である。お話の絵だが、大人が絵本を課題として与えて、その絵の再現を求めるような内容ではなく、子どもがオリジナルなストーリーをつくるという、まさに自分の主題を自ら見つけていく基礎となる題材である。 自分のお話を発表し、友達のお話を聞くことによって、自分や友達のよさに気づくという鑑賞の基礎にもなる題材である。
	4時間 教科書15ページ	表現 (2) 	 つくったかみテープのつながりかたをくふうしてかざる	ゆらゆらウキウキ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、好きな形や色、太さや長さの紙テープをつくり、それをつなげたり、組み合わせたりして、おもしろさや美しさを見つけながら、飾りを工夫する内容である。 紙テープを輪にしたり、たばねたり、ばねにしたりして、好きな形をつくる。いろいろな形にしたものをつなげたり、つるしたりしながら、その動きや形から想像を広げて、表したい飾りをつくっていく。	関:気に入った形や色の紙テープをつくり、それを使ったつくり方を試みながら、飾りをつくることをたのしむ。 発:紙テープを使った新しい表し方を見つけ、つくりたい飾りを考える。 創:紙テープのつなげ方を工夫しながら、気に入った感じを見つけてつくる。 鑑:自分や友達の作品の表現の工夫や美しさに共感しながら見る。 【共】紙テープを輪にしたり、たばねたりしてできた形や色の組み合わせをもとに、つくりたいもののイメージをもつ。	教師:色画用紙、両面色つきの造形紙、ホチキス 児童:はさみ、のり	1・2上では、はさみで薄い色紙を切ってつなげる経験をするが、ここでは、カッターナイフを使って、太さを一定そろえた、色画用紙や色厚紙をテープ状にしてつなげる、やや高度な活動である。 紙の切り方やつなげ方、折り方、紙テープの組み合わせ方などに工夫が要求される。 つなげた紙の弾力性なども含めて、今後、飾りをつくっていくときの基礎体験となる。







学期	時間	指導 要領	めあて と重点 活動	題材 名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・28時間	2時間 教科書 20・21ページ	表現 (2) 立	 「グアナコ」という「とほからそうざう」 したものをくふうしてつくる	ひみつのグアナコ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、土粘土(一人1kg)の感触を味わいながら、「グアナコ」という言葉からイメージを広げ、自分の考えた生き物や動物を想像し、粘土の塊を引きのばしたり、丸めたり、伸ばしたりして、組み合わせてつくりながら工夫する内容である。 土粘土以外では油粘土でも同様の活動を行うことができる。 また、「グアナコ」以外にも、「パーラル」「オカピ」などの名前の動物からイメージを広げることできる。	関:言葉から発想した動物や生き物をつくることに興味や関心をもつ。 発:言葉のもつイメージから発想を広げ、自分の「グアナコ」を、粘土を操作しながら思いつく。 創:粘土の操作を工夫して自分の表す形を追求し、自分のイメージに合う表現にする。 鑑:自分と友達のよさや工夫したことを感じ取る。 [共] 粘土の感触を味わいながら、操作した形と「グアナコ」という言葉を結びつけて、自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師:土粘土(一人1kg程度)、粘土板、粘土べら 児童:(油粘土)、タオル	言葉から想像した動物を土粘土で立体に表す活動である。1・2上では、小さなものを思いつくまま開放的にたくさんつくるが、ここでは、ひとつのテーマで作品に取り組む。 1・2上で粘土の可塑性をたのしんだ体験をもとに、ここでは、さらに言葉から想像したものを立体に表すということにチャレンジしていく。手や腕を十分に働かせて粘土に向かうことを大切にしたい。
	4～6時間 教科書 22ページ	表現 (2) 絵	 「どうぶつとあそんだときのようすをえにかく」	どうぶつさんとわたし	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、自分の好きな動物と遊んだときの様子を思い浮かべながら、表したい様子が表れるようにかく内容である。 学校や家庭などで動物と遊んだことをいろいろ思い出しながら、好きな動物と自分とのかかわり合いを周囲の情景も含めて表すようにする。	関:動物と遊びながら見たこと、心に残ったことを自分の方法で自由に絵に表すことをたのしむ。 発:動物と遊んだことの中から心に残ったことを思い浮かべ、表したい場面を考える。 創:好きな色を選んだり、気に入った形になるように工夫したりして、自分の表し方で表す。 鑑:自分や友達の作品を見ながら、よさを見つける。 [共] 身近な動物と遊んだことを思い浮かべて、動物と自分との形や色を中心に思い浮かべ、その形や色をもとに、自分のかきたいイメージをもつ。	教師:画用紙(四つ切りまたは八つ切り)、(色画用紙)、共同絵の具 児童:クレヨン、パス、カラーペン	具体的な動物を思い描きながら、使い慣れた描画材で表現する題材である。 動物をイメージすることと、それを表したい形や色でかくことを一体化させて表現していく基礎となる題材である。この段階では、あまり足の形や尻尾のつき方、耳の形などにこだわらなくてもよい。 色も、自分で感じた色や、こんな色だったらたのしいという前向きなとらえ方をしておく。

2学期・28時間	4時間 教科書 23 ページ	表現 (2) 工	 ころがるついきのおもしろさから そうぞうをひろげ、うごくおもちゃを くふうする	コロコロ大きくせん！	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、ものが転がる力を利用して、コロコロ転がるおもちゃをつくったのしむ内容である。 動きの特徴に合う装飾を考えたり、自分のイメージどおりに動くように工夫したりするなど、繰り返し、遊び試しながらつくる。 転がる様子から発想して、容器に簡単な装飾をした後、坂道をつくったり、重りを交換したりしながら、競走やゲームなど思いついた遊びをたのしむ。	関：動きの特徴に関心を持ち、いろいろな材料やつくり方を試しながらつくる。 発：転がる動きや、重りにかぶせる容器などの特徴から、つくりたいもののイメージを広げる。 創：よりよい動きや、動きの特徴に合う装飾を工夫しながらつくる。 鑑：友達といっしょに動かしたり、遊んだりしてたのしむ。 【共】コロコロと転がるしくみから思いついた形や色の組み合わせを考えて、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。	教師：色画用紙、厚紙、マッピン、坂道用の板 児童：空き容器、ビー玉、乾電池など、ひもやモールなどの身辺材料、カラーペン、はさみ、セロハンテープ、化学接着剤	1・2上での動くおもちゃでは、動く仕組みはみな同じ仕組みで活動するが、ここでは、自分でおもしろい動きを見つけて、その飾りを考えておもちゃをつくるという一歩進んだ活動である。 動くおもちゃは、仕組みの理解と、その仕組みをどう生かしておもちゃにしていける工夫である。 仕組みと飾りの組み合わせのおもしろさを十分に味わうことで、もう少し複雑な仕組みを使った動くおもちゃづくりへの意欲づけをしたい。
	2時間 教科書 24・25 ページ	表現 (1) 遊	 しぜんのさざりようをつかって、 くふうしてかっこよくする	ちきゅうからのおくりもので	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、屋外で木の葉や実、枝など(貝殻や小石、流木、海藻など)の美しさやおもしろさに関心をもって集め、それらを選んだり、集めたり、組み合わせたりする活動のなかで、自然の材料の形や色、大きさや量、材質のおもしろさを体全体で実感する造形遊びの内容である。 校外での活動では安全面には十分注意したい。	関：自然の材料のよさなどに関心をもって集め、形や色などから思いついた活動をたのしむ。 発：集めた材料の形や色、材質などから活動を思いついたり、考えたりする。 創：体全体で自然の材料にかかわり、思いついたことや考えたことを自分らしい方法で表す。 鑑：集めた自然の材料のよさや自他の活動のよさ、工夫などを感じ取り、自分の活動の中に取り入れれたりする。 【共】自然の材料の感触、形や色をとらえ、それをもとに、してみたい活動のイメージをもつ。	教師・児童：木の葉、枝、実(貝殻や小石、流木、海藻)などの自然の材料。ひも、はさみ、ホチキス、粘着テープ、木工用接着剤、(かご、ポリ袋など材料を集める際に使うもの)	自然の材料を使った造形遊びとしては、1・2上の「しぜんとなかよし」と同じ系統である。 身近な自然材に出会い、手に触れ、親しみをもって自然の中で活動することは、季節を感じたり、自然材の形や色の違いに気づいたり、と図画工作だけでなく、生涯にわたって、日常の潤いとなっていく。
	4時間 教科書 26 ページ	表現 (2) 絵	 つたえたいことをえてがみに かいてたのしむ	ひらいて見てね、わたしのえてがみ	☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、生活の中でたのしかった出来事、好きなこと、発見したことなど、伝えたい内容を伝えたい相手のことを考えながら、絵に表す内容である。 絵や文章をかいた画用紙を他の紙に貼るなど、絵を見るときに扉を開いて見るようなたのしいかけをもった絵手紙を工夫してつくる。	関：生活の中から自分がたのしいと感じたことや好きなこと、発見したことなどを絵と文章にして表すことに興味や関心をもつ。 発：伝えたい相手に語りかけようような気持ちで、伝えたい内容を考える。 創：表したい内容に合わせて、工夫して表す。 鑑：友達の表し方や工夫したことについてよさを認めたり、自分の活動との違いに気づいたりする。 【共】たのしかったことや好きなことなどを思い浮かべて、その形や色を考えて、伝えたい絵手紙のイメージをもつ。	教師：画用紙、色画用紙、共同絵の具 児童：カラーペン、クレヨン、はさみ、のり	造形によるコミュニケーションを大切にしたい題材である。伝えたい相手や内容を考えて、それにふさわしい形や色で表現する内容である。 上級の学年では、飛び出すカードをつくるような題材の系統であり、中学校のデザイン、ポスター制作などにもつながる基礎となる。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・28時間	4～6時間 教科書27ページ	表現(2) [工]	 いろいろななかたちやいろのはっぱをつかって、かざるものをつくる	あきをならべていいかんじ	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、いろいろな形や色の落ち葉を集める。落ち葉の形や色、大きさなどを考えて、並べる、重ねる、組み合わせるなど、各自の考えや感覚を大切にしてつくる内容である。</p> <p>落ち葉は、好きな形の台紙の上に置き、上から和紙や薄紙をのせて洗濯のりで貼り合わせることで、作品として固定できる。</p> <p>貼り合わせた作品は、さらに加工をたのしむこともできる。</p> <p>季節を感じる自然材料の美しさをたのしみながら、その造形的な特徴を生かして表す活動である。</p>	<p>関：落ち葉の形や色、感触など、季節を感じる自然材料の美しさをたのしむ。</p> <p>発：集めた材料を並べる、重ねる、組み合わせるなど、自分の考えや感覚を大切にして想像を広げる。</p> <p>創：落ち葉の造形的な特徴を生かしながら、和紙と組み合わせ、自分の思いに合った形をつくる。</p> <p>鑑：自然の美しさや作品のよさを感じ取る。</p> <p>【共】落ち葉の形や色、感触をとらえ、それをもとに、形や色の組み合わせを考え、つくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師：習字用の半紙や障子紙、鳥の子紙などの和紙またはトレーシングペーパーなどの薄紙、工作用紙や間伐材テープ、洗濯のり、刷毛、画板</p> <p>児童：太筆、タオル、はさみ</p>	<p>造形遊びとして自然材料を味わった体験を生かして、飾りをつくる題材である。</p> <p>集めた自然材料の形や色を生かして構成し、和紙を貼ってつくる。</p> <p>この題材では、まず「造形の学びは材料集めから始まっている」こと、集めた材料を自分の感覚で構成すること、和紙を貼ることで半透明になった作品の効果を知ることなどがある。</p> <p>自然材と和紙の相乗効果は、学年が進むにつれ、様々な場面で役に立つ体験となる。</p>
	4～6時間 教科書28・29ページ	表現(2) [絵(版)] 鑑賞	 ローラーやかたがみをつかったいろいろなうつくしかたをくふうする	うつつて見つけて	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>活動したことや表現したものを見ることを楽しむ。</p> <p>ここでは、ローラーや版を使って版遊びを十分にたのしみ、写すことを試したりしながら発想を広げて型紙版画に表す内容である。版には従来の紙(紙版)とは違い、入手しやすい透明シートを提案した。紙よりも丈夫で何度でも刷ることができる。</p> <p>型押しやローラー遊びの経験を思い出しながら、写してみたい形や色の工夫をしたり、いろいろな写し方に関心をもったりしながら表していく。</p> <p>写したもののから想像を広げて、クレヨンやカラーペンなどでかき加えていく。</p>	<p>関：ローラー遊びなどに関心をもち、意欲的に版で表す。</p> <p>発：ローラー遊びややさしい版の表現から自由な発想や想像をふくらませる。</p> <p>創：版を使った表現を試しながら、繰り返しや重なりなどの工夫を表現に生かす。</p> <p>鑑：自分や友達の表現から発想のたのしさや版のよさを感じ取る。</p> <p>【共】様々な形を写し取る活動を通して、形や色をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師：スポンジローラー、クリアファイルなどの透明シート、カッターナイフ、カッターマット、共同絵の具(版画用水性インク)、練り板、画用紙</p> <p>児童：はさみ、古新聞紙、タオル</p>	<p>ここでは、型抜きとローラーを利用した型紙版画の技法を使っているが、6年間で様々な版の体験が系統的に配列されている。</p> <p>彫りと刷りの組み合わせや同じものが何枚もできるという特徴、紙版や木版、スチレン版など版材の違いによる刷り上がりの効果や美しさなど、様々な版表現ならではのたのしさを体験させたい。</p>

3 学期・18 時間	2 時間 教科書 30 ページ	表現 (2) 	 もようをつくる 「じぶんマーク」をもとに	あつまれ、おなじかたちいっぱい！ ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 色紙を折り重ねて自分マークをかき、はさみで切り抜くと同じ形の自分マークがたくさんできる。 大きい形、小さい形、気に入った色など、色紙を切り抜いて自分マークをたくさんつくり、台紙(画用紙)の上に並べる。台紙は各自で色を選択する。同じ形、形の大小、色の組み合わせ、並べる方向など、自分の感覚や考えを大切に台紙に貼り合わせ、気に入った感じに表現する。	関: 同じ形、形の大小、色の違いなど、形や色の組み合わせに興味や関心をもつ。 発: 切り抜いた複数の自分マークの形や色の違いなどを組み合わせたり、並べたりしながら気に入った感じを思いつく。 創: 色紙を折り重ね、複数の自分マークをはさみで切り抜いたり、台紙にのりで貼り合わせたりする。 鑑: 自分マークの形や色、組み合わせ方や並べ方を工夫すると、様々な表現が生まれることに気づく。 【共】 自分マークをもとに、形や色の組み合わせを考え、つくりたい模様のイメージをもつ。	教師: 色画用紙(八つ切り)、色紙 児童: のり、はさみ	「自分マーク」をもとに、サイズの違う同じ形をいくつもつくり、形や色、方向を考えながら平面上に構成して貼りつける題材である。 平面構成や中学校ではデザインの基礎となる題材である。
	4 ～ 6 時間 教科書 31 ページ	表現 (2) 	 くふうし、おもいついたものをつくる かみの立たせかたやかざりかたを	かみを立てたかたちから ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、子どもが個々に紙を折ったり、曲げたりして立てる方法を試しながら、意図的に、あるいは偶然に生まれた紙の形から発想し、自分なりのテーマを決めて飾りをつけたりしながら工夫していく内容である。	関: 紙を立てた形から思いついた活動することに興味や関心をもつ。 発: 紙を立てた状態や特徴からイメージを広げ、自分なりのテーマを思いつく。 創: 紙の接着や加工方法を工夫したり、つけ加える材料を工夫したりして、表現を追求する。 鑑: 自分や友達の発想や材料の使い方のよさを感じ取る。 【共】 紙の立て方を考え、立てた紙の形をもとに自分の表したいもののイメージをもつ。	教師: 色厚紙、色画用紙、色セロハン紙、お花紙 児童: ひも、毛糸、モール、ビーズ、リボン、ボタンなどの身辺材料、接着剤、はさみ	カッターナイフの扱いに慣れることを意図した題材である。 厚みのある紙を切る、窓を切り開けるなどの操作をしながら、カッターナイフの扱いに十分に慣れるよう、また安全にも十分に留意するように指導する。 ここで、きちんとした扱い方を体験しておく、上級学年になっても、安全に自分の思いを生かした効果的なカッターナイフの使い方ができるようになる。
	2 時間 教科書 32 ページ	表現 (1) 	 つながれたりしたのしくかつどうする かみパックやかみコップをきつたり、	きつて、ひねって、つなげると ☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、牛乳パックや紙コップなどを切り開いて、ひねったり、ホチキスでつなげたりして、形を変化させていくたのしさを味わう造形遊びの内容である。 身近な材料をばらばらにならないように切り開き、新しい形につくり変えたり、つなげたりして、立体的な形やひねったことによってできる空間をたのしむ。	関: パックを切り開いて、つなげて形を変えていく活動をたのしむ。 発: パックを切り開いて、つなげていくとどのような形ができるか、発想を広げる。 創: パックの切り方やひねり方、つなげ方を試し、新しい形を見つけて表している。 鑑: 友達の作品とつなげたり、つくったものを飾ったりしながら自分や友達の表現のよさを味わう。 【共】 牛乳パックや紙コップを切り開き、ひねったり、つなげたりする行為を通して、自分でしたい形や色の組み合わせや活動のイメージをもつ。	教師: ホチキス、色画用紙 児童: 牛乳パック、紙コップ、はさみ、カラーペン	牛乳パックや紙コップを途中で切り落とさず、長く細く切り開き、組み合わせしていく活動をたのしむ題材である。 既存の形を変化させて、新たな形をつくり出したのしむという造形遊びの内容であるが、細長い紙を使って飾るものをつくってきた系統の題材でもある。



学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
3学期・18時間	2～4時間 教科書 33 ページ	表現 (2) 立	 おもしろさを生かしてつくる	くいしんぼうのなかまたち	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、透明容器の形や色、光を通す特徴などから発想し、つくりながら自分なりの材料や表し方を工夫する内容である。 様々な形や色の透明容器を組み合わせた、まわりを飾ったり、容器の中に材料を入れたり、光の透過性を生かした表現のおもしろさを工夫する。	関：透明容器を通る光の美しさに興味や関心をもつ。 発：透明容器の特徴を生かし、つくりたいもののイメージをふくらませる。 創：容器の組み合わせ方や中に入れる材料を工夫してつくる。 鑑：光を通してのしみながら、自分や友達の作品のよさや工夫を認め合う。 【共】 材料の特徴を生かし、透明容器を組み合わせた、飾ったりした形や色からつくりたいもののイメージをもつ。	教師：色画用紙、色セロハン紙、お花紙、アルミホイル 児童：色紙、ビーズ、おはじき、ビー玉などの身近材料、接着剤、はさみ、セロハンテープ	透明な容器の、透き通る特徴や容器の形を生かして、中に詰め物をしたり、飾りをつけたりしてつくる。 1・2上で、透明な袋に色セロハンを入れて、透過光を楽しんだ系列の題材であるが、透過性のある材料の特徴を体験することが、光や明かりを取り入れた造形の工夫へとつながっていく基礎となっている。
	2～4時間 教科書 34 ページ	表現 (2) 絵	 せっけんのあわからできたかたちやいろを生かしてかく	※キラキラシャボンで	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、絵の具を入れた石けんの泡の形を画用紙に写してできる模様づくりをたのしみ、できた模様からイメージをふくらませて、思いついたことをかき足す内容である。 石けん水と絵の具で色シャボン水をつくり、長くつないだストローで吹いて泡立たせ、容器の上に出てきた泡の形を画用紙に写してできる模様づくりをたのしむ。 何枚か繰り返し試み、模様づくりの工夫をする。乾かした後、できた模様の形や色を生かしてイメージを広げたことをクレヨンやカラーペンでかき足し、自分の思いを深めていく。	関：色シャボンで模様をつくるたのしさを味わう。 発：自分の気に入った形や色の模様を発見しながら、イメージをふくらませる。 創：模様づくりをいろいろ試みながら、思いついたことを表す工夫をする。 鑑：自分や友達の見つけた模様づくりのおもしろさやつけ加えて表したもののよさに気づく。 【共】 色シャボンからできた模様の形や色をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	教師：石けん、洗剤、共同絵の具、画用紙、色画用紙（四つ切り、八つ切り） 児童：ストロー（一人3本）、クレヨン、カラーペン、空き容器（カップ類）、エプロンやスマック、セロハンテープ	色シャボンなど様々なものが描画材料になるという題材である。 できる模様は偶然性が高いので、偶然にできた形や色から自分のイメージをもち、何かに見立てるなどして絵に表す、という内容でもある。 この経験が、見立て遊びや、モダンテクニックへとつながっていく。

3学期・18時間	2・4時間 教科書 35 ページ	表現 (2) 	 ぼかしてできたかたちやいろを生かしてかく	※ぼかしあそびで	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、クレヨンやコンテ、パスなどの棒状の描画材料を用いたぼかし遊びをして模様づくりをたのしみ、できた模様からイメージをふくらませて、思いついたことをかき足す内容である。</p> <p>何枚か繰り返し試み、模様づくりの工夫をする。できた模様の形や色、雰囲気を生かしてイメージを広げたことをクレヨンなどでかき足したり、さらにぼかしを加えたりして、自分の表したいことや思いを深める。</p>	<p>関：クレヨンやパスなどの描画材料を用いたぼかし模様をつくるたのしさを味わう。</p> <p>発：自分の気に入った形や色、雰囲気の模様を発見しながら、イメージをふくらませる。</p> <p>創：模様づくりをいろいろ試みながら、思いついたことを表す工夫をする。</p> <p>鑑：自分や友達の見つけた模様づくりのおもしろさや、つけ加えて表したもののよさに気づく。</p> <p>【共】 パスやコンテなどのぼかしからできた模様の形や色をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師：コンテ、黒板用チョーク、画用紙、色画用紙（四つ切り、八つ切り）</p> <p>児童：クレヨン、パス、ティッシュペーパー、はさみ</p>	<p>クレヨンやパス、コンテで様々なぼかしを経験する題材である。かいた作品をぼかすのではなく、まず様々なぼかしを体験し、ぼかした形や色からイメージを広げて、絵をつけ足していく内容である。</p> <p>系列としては、見立て遊びやモダンテクニックへとつながっていく基礎体験となる。</p>
	4時間 教科書 36・37 ページ	表現 (2) 	 つくったものをみんなで力をあわせて楽しむ	ピコリン星のカラフルパーティー	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、これまでに経験してきた表し方を生かして、「ピコリン星でパーティーが始まるよ。」という設定で、想像の世界を広げながら、みんなで協力してつくり、展示していく内容である。</p> <p>ここでは、p.33にある「くいしんぼうのなかまたち」の材料やつくり方を発展させて活動を広げている。</p> <p>透明容器の接合、中に入れるもの、外をくるむものなど総合的に工夫をしながら、表したい世界を友達と協力してつくる。</p>	<p>関：ピコリン星の世界への思いをふくらませ、これまでに経験したつくり方を生かし、みんなで協力してつくる。</p> <p>発：「ピコリン星で行われるパーティーやお祭り」について表したい様子を発想し、つくる場所や方法、材料の組み合わせなどを考え、構想する。</p> <p>創：ピコリン星のイメージに合う材料を集め、その特徴を生かし、表し方を工夫する。</p> <p>鑑：みんなでつくった作品の展示方法を工夫しながら、自他の作品のよさを見つける。</p> <p>【共】 ピコリン星という言葉から想像を広げ、思いついた形や色、材料の組み合わせなどを試しながら、それらをもとに自分のつくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師：モール、軽量紙粘土、色水、ホチキス、化学接着剤、透明テープなど</p> <p>児童：透明容器、容器の中に入れる材料やまわりを包む身辺材料、はさみ、接着剤、セロハンテープ、ビー玉、ビーズなどこれまでに経験した材料</p>	<p>低学年で体験したことを総合的に発揮し、表現する活動である。技法、発想、展示方法も含めて、友達と協力してつくったり、つくった作品を協力して飾ったりするという内容である。</p> <p>低学年では、純然たる共同制作は難しいが、個別に完成した作品のよさや、それらをみんなで持ち寄って共同で展示することによって、また新たなよさが生まれるなどの経験することで、上級学年に向けての共同制作への意欲づけとなる題材である。</p>

頁	指導 要領	題材名	学習の内容	主な材料・用具
教科書2～4ページ	鑑賞	小さなびじゅつかん	<p>巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけでなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。</p> <p>ここでは、「なにがすきかな」と問いかけることで、自分のすきなものやすきなことを表現した作品を掲載した。生き物などの単体だけではなく、まわりの状況も含めた表現を掲載することによって、周囲のものや人への関心を高めたい。</p>	
教科書6～7ページ	鑑賞	ゆめをかたちに	<p>子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。</p> <p>ここでは、陶芸作家の保科晶子さんに登場していただき、造形材料としての粘土の魅力を子どもたちに呼びかけるような文で語ってもらった。</p>	
教科書18・19ページ	表現 (2) [エ]	ひらめきコーナー	<p>☆生活を楽しくするものの用途などを考えながら、思いのままに表すことを楽しむ。</p> <p>ここでは、紙を折ったり、丸めたりして、低学年の児童でも簡単にできる紙工作を提案している。また、紙コップや牛乳パックを簡単な加工によってできる動くたのしいおもちゃも掲載した。</p>	<p>教師：色画用紙、色厚紙、紙コップ、化学接着剤、輪ゴムなど</p> <p>児童：色紙、はさみ、のり、カラーペン、牛乳パックなど</p>
教科書38～40ページ	鑑賞	みんなのギャラリー	<p>暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心がもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。</p> <p>ここでは、「みんなでいっしょに」「でんとうのわざをまなぶ」「日本の祭り」「きょうしつをとびだして」「むかしからのおもちゃ(伝承玩具)」の四つのテーマでくくっている。</p>	

教科書 41 ～ 43 ページ	表現 (2)  [絵] [工]	道具箱・パレットコーナー	<p>道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることは大切なことである。そのための手引きのページである。また安全指導では「気をつけて！」のコーナーを設けた。ここでは、カッターナイフの使い方について掲載した。紙工作をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、自分の手のように扱えるようにしたい。</p> <p>「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、「かざりにつかえるもの」を提案している。</p> <p>また、「パレットコーナー」では、工作の道具以外に、描画材の使い方の基本を示した。ここでは、クレヨン・パスの重色や混色、その他の使い方を示している。</p>	
教科書裏表紙	鑑賞	つながるぞうけい みのまわりで	<p>「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、日常の何気ない「みのまわり」から美しいもの、おもしろいものに焦点を当てている。</p>	